

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7年 6月 15日

事業所名 児童デイサービス ぽっけ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	○				
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	○			利用児童の状況によ り、その都度改善を図 るように努めている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	○			毎日のミーティングで課 題について話し合い、出 来る対応についてはす ぐに実行するように努め ている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	○				保護者からの連絡帳記載による要望については、できること についてすぐにとり組み、その状況の報告をしている。また、保護者評価の実施については、各項目の評価を資料で 配布説明した上で評価してもらっている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	○			ホームページで公表し ている	評価結果については、ホームページに掲載するが、保護者に 対しては、プリントしてお渡しいます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている			○		実施するように努める
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している		○			内部研修のとどまっているため、外部研修にも取り組みたい と思います。
適切な支 援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護 者のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	○			予期しない課題が発生 した場合も保護者との 連絡で対処するように 努めている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	○			ケースバイケースで対 応するように努めている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行って いる	○			日々の全体活動のプロ グラムを担当毎に情報 交換している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫 している	○			全体活動を曜日に設 定し、毎回内容を変え ている	毎日の全体活動を曜日に設定し、主となる職員の配置を年 度ごとに変更しマンネリしないようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をき め細やかに設定して支援している	○			外出支援を多く設定し、 単調にならないように 努めている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス 計画を作成している	○			集団活動が苦手の児童 には、参加を無理強い せず対応するようにし ている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	○			前日の状況等を共有 し、対処すべき事項を確 認しながら支援している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している		○		翌日に行っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			利用日の個別の活動記 録を徹底している	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デ イサービス計画の見直しの必要性を判断して いる	○			年度の前期・後期に個 別のモニタリング会議を 設定し、評価・見直しを 実施している	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている		○		団体活動への参加が苦 手な利用者への居場所も工夫 しながら実施している。	保護者から「集団の中で過ごせるようになってほしい」とのご希望が多 いので、参加を促しつつ、それでも困難な場合は、スタッフを配置し、対 象児が得意な日課(遊び等)をサポートしている。

関係機関 や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達管理責任者含む支援に関わる全職員が参加している	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			個別に担任から状況の連絡を口頭で行っている。また、	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	現在は対象児がいない為実施していない	保護者との連携を踏まえ、主治医との連絡調整が可能な体制作りが出来るように努めていきたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		相談支援事業所の機会設定にゆだねている	相談支援事業所の利用計画の基づき、当事業所の環境（設備・スタッフ）に応じて成長に繋げていけるように努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		本人や保護者の多様な思いがあると思うので、要請に応じて情報提供をするようにしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○		相談支援支援事業所と連携しながら、助言や研修が受けられるように努めたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		地域の子供達来所し易い環境作りに努めている。	平日の時間では設定が困難な場合が多いので、長期休校期間等に計画的に設定できるように努めたい
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		○			必要に応じて活用したいと思います。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			日々の連絡帳や口頭により伝達し、希望される対処があれば応じるように努めている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			必要なケースに限られるが実施している	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			利用開始当初、また、確認が必要な場合に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			悩みなどの相談に対し親身に耳を傾けるように努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			現在中断しているので、早急に再開出来るように努めていきたいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情に繋がりそうな事例は発生した場合には、事前にその状況を説明するように努めている。	保護者とのコミュニケーションによる相互理解が重要と考えることから、保護者会の実施で更に連携を深めていきたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			行事の都度、実施状況を写真集にして発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	○			職員から守秘義務の誓約書を受けると共に、定期的にミーティングでも確認している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			ケースバイケースで工夫している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		全体活動で地域散歩を週に一回実施している	地域の催事に計画的に参加できるように努めたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			日々の手洗い、うがいの徹底で感染予防をしている	ひやり・はっと対策マニュアルを作成し、新しい事令が発生した場合は、その活況に応じた対策を策定するように努めていきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年2回の避難訓練の実施	避難訓練の状況を、その都度保護者へ報告できるように努めたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			啓示物等で啓発している	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		対象児がいない為、実施していないが、必要に応じ説明した上で了解を得て、実施したい。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	対象児がいない	現在は対象児がいないが、過去の経験を踏まえ児童のその特性に応じて対処していきたい
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			日常のヒヤリハット状況がある場合に環境含めた対応を心掛けている	ヒヤリハット対策として、利用者個々の特性（飛び出し、階段等での不注意行動、）に応じてマニュアル化しているとともに、危険行動等が新たに発生する都度対策を追加するようにしている。